

札幌くらぶ

No. 48



発行／札幌くらぶ(財)札幌交響楽団内
 札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)
 HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>
 Eメール sakkyoclubmail@yahoo.co.jp

『札幌と遊ぼう』

第8回 札幌くらぶコンサートを終えて

コンサートマスターの音合わせが終わるとともに会場が一瞬静まり返る。足運びも軽やかに横髪を靡かせ、白い指揮棒を片手に指揮者飯森範親氏が登場。ヨハン・シュトラウスⅡの「こうもり」序曲が始まる。札幌の楽しそうな音が会場に響きわたる。定期演奏会とは違った客層の雰囲気ステップを踏みたくくなるような気分。ベルリン、ミュンヘン、ウィーンで何度か観たオペラの場面を思い出しているうちに序曲は終わる。快い拍手に迎えられて「札幌と遊ぼう」の“遊ぼう”が始まる。「作曲者・曲名当てクイズ」の時間である。飯森氏により要領よく説明があり、会場一同かたずを飲んで聴き耳を立てる。最初の曲が終わるや否や2名の手が上がる。「グルックの精霊の踊りです。」との答え。飯森氏の「何という題名のオペラか解りますか」の問にも、すかさず「オルフェオとエウリディーチェ」と答えが返ってくる。その素早さと明解なやりとり、思わず会場からほうっと賞賛のため息が漏れる。内心「成功」とほくそ笑んでしまう。2名が正解者として札幌くらぶ係員から賞品引き換えの用紙を渡される。二曲目はブラームスの交響曲第2番、第三楽章。これもすかさず男性が当てる。本当にクラシック音楽マ

ニアはいるものと感心する。三曲目はベートーヴェンの交響曲第8番、第三楽章である。「はい」と威勢よく応じた方は「ベートーヴェンの交響曲第4番の第三楽章です。」と答える。「残念！惜しいのですが…」と飯森氏。二人目の方が正しく答え、会場から拍手が沸き起こる。惜しいのも道理であり、後に聞く処によると、第8番と第4番の第三楽章は似ているとのこと。クラシック通ならではの誤りなのかと嬉しくなる。四曲目は華やかに、メンデルスゾーンの結婚行進曲。これに答えた御婦人は、「メンデルスゾーンの『真夏の夜の夢』の中の結婚行進曲です。」と丁寧に答える。大部分の人が解ったようだったが、歯切れの良い応答に拍手喝采。そこで物語を説明し、結婚行進曲全曲を演奏してクイズコーナー終了となる。結婚行進曲もオーケストラで通して聴く機会はなかなかないようで、会場の小学生・中学生からお年寄りまで大いに盛り上がり充分満足した様子であった。

休憩をはさんで第2部はドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」の演奏。ゆったりと美しい管楽器の流れの中に、一際張りのある高井明氏のイングリッシュホルンのソロが響く。豊かでそしてしみじみと心に染み入る演奏に会

場全体が呼応して札幌と観客が一つに溶け合っているような錯覚をする。鳴り止まぬ拍手の中、カーテンコールの後、ドヴォルザークのスラヴ舞曲第14番がアンコールとして演奏される。初めて耳にする曲で、とても得をしたような気分になる。立ち去り難く席に着いている人々を後にして最後の大事な役目であるお見送りに立つ。見知らぬ人が「良かったですね。」と声をかけてくる。クイズで正解した夫人が走り寄って来て「嬉しかったです。」と弾んだ声で話しかけてくる。友人に誘われて初めてホールに足を運んだという人、昔の友人など沢山の人の声と笑顔を見ながら久しぶりの充実感を味わう。黒山の行列だった飯森氏のサイン会も終了、突然ホワイエに拍手が起こり、私服姿の高井氏が現われる。ほんとうに素敵な演奏を有難うと心からの拍手を送りながら、第8回「札幌と遊ぼう」のポスターを静かに下ろした。

(副会長 鈴木美保)



4年ぶりに復活した 札幌くらぶコンサートを終えて

4年ぶりに復活した『第8回札幌くらぶコンサート「札幌と遊ぶ」』は、8月9日（日）札幌コンサートホールキタラにおいて、14時20分に開場、15時開演、17時終演で開催された。

当日券売場では直前に新聞で2回紹介されたこともあり、窓口を開く前から当日券を買い求める人たちが並んでいた。ホールでは会長はじめ役員、スタッフが来場者を迎えた。

コンサートは、J. シュトラウスⅡ／「こうもり」序曲で始まり、飯森範親氏（山響音楽監督）の指揮、お話をクイズ曲へと進んだ。クイズ曲は管楽器が活躍する曲からグルック／精霊の踊り（クラリネット）、ブラームス／交響曲第2番第3楽章（オーボエ）、ベートーヴェン／交響曲第8番第3楽章（ホルン）、メンデルスゾーン／「真夏の夜の夢」～結婚行進曲（トランペット）の順に作曲家、曲名を伏せて演奏され、1曲ごとに会場から回答を募ったところ、ほぼ一発で正解が出され、正解がなかなかでないのではとの心配は稀有に終わった。

15分の休憩の後、ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界より」が演奏され、万雷の拍手に迎えてアンコール曲ドヴォルザーク／スラヴ舞曲第14番が演奏された。札幌の丁寧な演奏に来場者は満足し、終演後、飯森氏監修の『「マエストロ、それはムリですよ…」～飯森範親と山形交響楽団の挑戦～』の購入者を対象にしたサイン会が行われたがこれにも長い列ができた。

しかし、5月上旬、会員に対してチケットの先行予約販売開始のお知らせと、友人知人へのコンサートの紹介のお願いをする文書及びチケット申込ハガキ、チラシ各3枚を送り、チケットの予約申込受付を開始しましたが、会員の反応はこれまでにない低調なもの

でした。その後、6月16日の道新夕刊にコンサートを紹介する記事が掲載されましたが反応は回復せず、6月下旬、地下鉄大通駅など地下鉄16駅にポスター掲示、チラシを増刷して会員に再度郵送して会員の喚起を図り、併せてスタッフが分担して会員に電話をして協力をお願いしましたが状況は変わりませんでした。そして7月19日再び道新朝刊でコンサートが紹介され、このとき、家族に同伴する小学生の無料を打ち出し、一般の方々からは多くの反応がありましたが、会員の反応は相変わらずの状況でした。さらに、8月6日に読売新聞、8月7日に道新夕刊にと、合わせて4度新聞で紹介されましたが、一般の方々には掲載されるたびにいい反応がかえってくるものの会員の反応は変わることはありませんでした。

最終的にチケットはスタッフの努力もあり有料無料含めて1075枚がさばかれ、コンサートには908名が来場しました。しかし、おそらく札幌くらぶコンサート史上最も少ない来場者数ではないかと思われま

す。では、なぜ今回の札幌くらぶコンサートは、4年ぶりに復活、開催されたにもかかわらずこのような結果になったのだろうか。コンセプトが会員が求めるものと違うのか、4年間の空白で札幌くらぶコンサートというブランドがなくなってしまったのか、チケットが割高だったのか、時期が悪かったのか…等々いろいろな要因が考えられますが、もっと別の要因があ



るようにも思えます。

そこで、何が会員の反応に影響したのか、そしてそれを次に生かしていくためにはどうしたらいいのかを協議するため、8月26日、会長出席（市長就任以来初めての出席）のうえ、運営スタッフ会議を開催、出席の運営スタッフ全員に忌憚のない意見を出してもらった。その意見を集約してみると、

- ・ 時期的に夏休みやお盆の行事が優先され、開催時期に問題があった。
- ・ チケット料金に子供料金が設定されていなかった。
- ・ 無料や格安コンサートが多い時期で料金設定が高かったと思われる。
- ・ 会員の高齢化とあいまって、先の見えない状況の中ではチケット料金が高い。
- ・ 途中から小学生を無料にするなどコンサートの対象が明確でない。
- ・ コンセプトがハッキリしていない、札幌との詰めが甘かったのではないか。
- ・ 新聞で紹介されるまで一般の人たちにほとんど知られていなかった。





・会員の動きの鈍さは4年間の空白期間が影響している。
 ・楽譜支援と重複感を感じる会員が多い。
 などが出された。

- 今後、コンサートを成功させていくためにはとの意見として、
- ・コンサートを会員に対するサービスではなく、会員とともにつくり上げていくものと考える。
 - ・チケットは会員が買うのではなく、チケット売りは会員の活動の一環とする。
 - ・コンサートには、会員は全員参加すべきであり、その状況をつくるべきである。
 - ・コンサートの見せ方、見え方に工夫が必要。
 - ・子供優待、招待はこれからも取り入れていく必要がある。
 - ・収支の合う仕組みの議論をしつかりすべきである。
 - ・協賛を募る活動を早くから取り組む必要がある。
 - ・札幌のファンクラブの醸成する姿勢が見えないところを札幌くらぶがどうサポートするか手掛かりを探す。
 - ・コンサート終了後は交流会を開催したほうがよい。
 - ・札幌と共催を原則とする。



(練習風景)

- ・オーディエンス（聴衆、観客…）を増やすことができる団体と共催を検討する。
 - ・観光客に接する人たち（TAXI、ホテル…）が所属する団体の協賛で集客を図る。
 - ・市内のアマチュアオーケストラや一般への告知、チケット販売活動は、もっと早くしたほうが活動しやすい。
 - ・新聞以外にも雑誌、TV、ラジオなどのメディアの活用も検討すべき。
- などが出され、これらの意見を踏まえながら札幌くらぶコンサートは今後も続けていくことを確認しました。

次のコンサートの開催を検討するために、運営スタッフ、会員、会員以外の専門分野のメンバーで構成する「拡大事務局会議」、コ

ンサートの内容を検討する「コンサート企画委員会」を設置することとし、早速、運営スタッフは拡大事務局会議を構成する会員以外の専門分野のメンバーのリストアップを行うこととしました。

会員の皆様には「拡大事務局会議」に参加を希望される方、また、適任と思われる方の推薦を札幌くらぶ事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

ファックス (011-563-6460)
 郵便 (064-0931) 札幌市中央区中島公園1-15 札幌事務局 気付)
 E-Mail (muto@kmf.biglobe.ne.jp)
 のいずれかの方法でお申し出ください。

お待ちしております。
 (事務局長 武藤 義典)



札幌公式ホームページが新しくなります

<http://www.sso.or.jp> 9月14日午後から公開

- スケジュールのカレンダー表示から演奏会情報を検索できます！
- 放送予定、当日券など最新ニュースがトップページに！
- インターネットからチケットを予約・購入！～9月16日先行発売から～
- アウトリーチ活動など札幌を多角的に紹介！

約5年ぶりに札幌交響楽団の公式ホームページがリニューアルされます。演奏会や様々な地域密着の活動など「札幌」の今日・明日がすぐにわかるページですので、今後ぜひご活用ください。以下に概要をご紹介します。

【スケジュール】 トップページ右のカレンダー表示をご覧ください。色のついた日付をクリックすると、カレンダーの下にその日の札幌演奏会予定などが表示され、もっと知りたい方はさらに詳しいページをみることで

きます。

【ニュース】 アンコール曲、当日券発売予定、JRタワー妙夢コンサートなどアウトリーチ活動の予定、テレビ・ラジオの放送予定など、最新情報のタイトルが並んでいます。詳しい情報はタイトルをクリックしてご覧いただけます。

【コンサートとチケット】 札幌の出演する演奏会についてひとつひとつ詳しくご紹介、定期演奏会は聴きどころなどもあわせて掲載しています。

チケットのお求め方法や座席

割も確認できます。聴きたいと思ったときはすぐに、演奏会ごとに表示されているチケット購入ボタン、もしくはトップページのオンライン・チケット購入をクリックして、お好きな席をご予約ご購入ください。(9月以降発売分のチケットからのサービスです。)

【札幌交響楽団について】 楽団のプロフィールと写真をご紹介します。さらに指揮者・楽団員ページからは、指揮者はもちろんコンサートマスターなどのプロフィールもご覧いただけます。

そのほか、**【教育・福祉・地域活動】** では、札幌交響楽団が北海道のオーケストラとして、皆さまと地域のため、日々取り組む活動についてご紹介します。

【ご支援のお願い】 で、これらの活動を継続するために欠かせない皆さまのご支援について、広くご案内しております。

若杉 弘氏の死を悼む



7月21日午後6時13分に指揮者、若杉弘氏が多臓器不全のため亡くなられた。74歳だった。父親が外務省駐米ニューヨーク総領事だった関係でアメリカ生まれ、慶応大学の経済学部へ入学、混声合唱団楽友会に所属したが中退して東京藝術大学指揮科に入学し直し、卒業後外山雄三、岩城宏之に次いでNHK交響楽団の指揮研究員になった。1963年3月に東京交響楽団でデビュー、間も無く9月19日に労音公演で札幌を指揮した。この演奏会ではベートーヴェンの第5番「運命」がトリだったが山根弥生子と共演したベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番の演奏が印象に残った。2度目は'64年1月の第26回定期演奏会、俳優、露口茂の語りプロコフィエフの交響曲的物語「ピーターと狼」が話題になった。翌'65年10月の第44回定期が3度目で、フルートの第一人者ジャン・ピエール・ランパルがソリストだった。最初の曲、バッハの組曲第2番をランパルは指揮

者なしで演奏すると言い、若杉は札幌市民会館の反響板の後ろから眺めていた。この頃までの若杉は自分の音楽的な主張をするよりむしろ上手に合わせ物をこなす指揮者のような印象だった。5度目になる'76年4月の第150回定期で夫人のメゾ・ソプラノ長野羊奈子の歌でマーラーの「不思議な子供の角笛」を共演した時、俄然、指揮者としての存在感を感じるようになった。翌年、ドイツのケルン放送交響楽団首席指揮者に就任した。'76年9月に行われた第45回「北電ファミリーコンサート」の指揮者も若杉で発表してありコンサートの前日まで緻密なリハーサルをしたがコンサート当日朝、尿道結石になり宿泊先のパーク・ホテルから「若杉さんが苦しんでいる」の連絡で駆けつけ七転八倒する若杉氏を救急車で北大病院まで搬送、入院した。尿道結石はよほど痛いらしく付き添っている側も辛かった。北電ファミリーコンサートは急遽三石精一が呼ばれス

テージ練習だけで無事こなした。残念だったのは札幌が初めて演奏する予定だったシェーンベルクの難曲「浄められた夜」がモーツァルトの弦楽セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」に変更されたことだった。3日後に石はトイレに流れたようだ。

若杉はプログラム編成にことのほか強くこだわる指揮者だった。近現代の曲目を取り上げる姿勢をとり続けた。札幌との最後の共演は'96年3月、第378回定期でのマーラーの交響曲第9番、マーラーも得意のレパートリーだった。札幌へは'97年にミュンヘン・フィルと来演した。札幌定期会員からまた共演して欲しいとの声があがっていた。

後年オペラ指揮者としてライン・ドイツ・オペラ、ドレスデン・シュターツカペレ、バイエルン国立歌劇場などの指揮者を務めるなど日本人として初めてドイツ語圏でのオペラ・指揮者として歌劇場の地位を持ち、2007年から新国立劇場の芸術監督（2011年からは尾高忠明）に就任、任期半ばでの逝去だった。

ご冥福をお祈りします。

(竹津宜男)

こんなコンサート活動をしています

■ 地域のためのちいさなコンサート

夏山朋子（札幌ファゴット奏者）さんのプロデュースによるコンサートが、西区山の手で隔月開催されています。50人ほどの会場ですが、毎回、ゲストを向かえて夏山さんとのアンサンブルを中心に曲目が編成されており、夏山さんの楽しいおしゃべりを交えながらのコンサートです。8月30日には第3回目が行われました。ヴァイオリンの河邊俊和さんと中村菜見子さんをむかえてバッハやヘン

デル、ヴィヴァルディのバロック音楽を中心に、バルトークの『2台のヴァイオリンのための小品』などめったに聴くことができない曲も取り上げてのコンサートでした。演奏前のおしゃべりに3人それぞれの個性が表れて、また、中村さんが撮った写真（プロ級の腕前）の展示とそれについてのおしゃべりもあり、3人がより身近に感じられるコンサートとなりました。次回は10月18日、ゲストに

坂口さん、宮城さんをむかえてファゴット3本の演奏を予定しています。このコンサートに関する問い合わせ・申し込みは、TEL (011) 644-4203青木新聞店（西区山の手2条4丁目5-16）まで、お気軽にどうぞ。



10・11・12月 札響定期のききどころ ～定期演奏会を満席に～

今後の札響定期のききどころを札響くらぶ会員に語っていただきました。10月は毎回、名演奏を聞かせてくださるボッセさんが登場し、11月は尾高監督十八番のオールエルガーのプログラム、12月は熱い指揮でおなじみの広上さんがロシア音楽をひっ提げての登場となります。3ヶ月に渡り、ドイツ、イギリス、ロシアと、それぞれの国の音楽の違いを名指揮者による演奏で味わうことができ、それに札響がどのように答えてくれるのか、聴きどころ満載です。皆さんもお友達を誘って定期演奏会に出かけましょう。札響くらぶ会員の手で定期演奏会をいつも満席にしましょう。

■第522回定期演奏会

10月16日(金)19:00～ 17日(土)15:00～
指揮：ゲルハルト・ボッセ
曲目：メンデルスゾーン／序曲「静かな海と
楽しい航海」
ハイドン／交響曲第101番「時計」
ベートーヴェン／交響曲第7番

今年はハイドンイヤー、メンデルスゾーンイヤーですね。(ハイドン没後200年、メンデルスゾーン生誕200年)その記念の2人に「のだめ」ですっきりおなじみになったベートーヴェンの7番という、豪華ラインナップです。ボッセさんは2年前の第504回定期でオールハイドンの演奏をなさいました。しかも、選曲が交響曲第6番「朝」、第7番「昼」、第8番「晩」という地味なもので(ハイドンさん、ごめんなさい)、どんな演奏会になるのか興味津々でした。でも、その演奏のすごいこと!! 正統派ドイツのがっしりとした音楽は、聴いていた聴衆全てに大きな感動を与えてくれ、すごく得をした感じでした。今回もまた期待大です。このコンサートは「☆3つつです!!」

■第523回定期演奏会

11月13日(金)19:00～ 14日(土)15:00～
指揮：尾高 忠明(札響音楽監督)
独奏：ガイ・ジョンストン(チェロ)
曲目：エルガー／序曲「フロワッサール」
チェロ協奏曲
エニグマ変奏曲

尾高音楽監督がお得意のエルガー。イギリスに強い思いを寄せる尾高さんと、尊敬と熱い声援をおくる英国聴衆とはまさに相思相愛の関係です。今まで、『エニグマ』が札響との演奏がなかったなんて、ちょっと意外でした。謎に満ちた(?)この曲は何度聴いても新鮮に聴こえます。注目は若手(まだ20代!!)チェリストのガイ・ジョンストンさんです。最近、英国出身のチェリストが何人も大活躍していますが、一番若手のガイさん。人気のチェロ協奏曲を若さあふれる演奏で、我々を魅了してくれそうです。

■第524回定期演奏会

12月11日(金)19:00～ 12日(土)15:00～
指揮：広上 淳一
独奏：ニコライ・ルガンスキー(ピアノ)
曲目：ショスタコフヴィチ／交響詩「十月革命」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「火の鳥」

私が広上氏の演奏を生で聴いたのは、'94年スウェーデンのノールショピング交響楽団を率いて年金で演奏したときが初めてです。そのときの感想は、あまり有名でない(私は全く知りませんでした)このオーケストラの隅々まで彼の指示がいきわたり、意のままに操り、制御のきいた演奏だけど、音楽を生き生きと引き出しているという驚きでした。もちろん、小さな身体全身から迸る情熱あふれる指揮ぶりも印象的で、それ以来すっかりファンになりました。2007年4月の定期では、終了後に札響くらぶの「交流会」にも顔を出して下さり、ミーハーは私はサインまでねだってしまいました。今回の定期では『火の鳥』をやるようで、きらびやかな音の大洪水を期待しています。

※ 次号は、1・2・3月定期を載せる予定です。皆さんの思いをお寄せ下さい。

札響名曲シリーズにラドミル・エリシュカ首席客演指揮者が満を持して登場

■札響名曲シリーズ Vol.2 チェコ

10月31日(土) 15:00開演
スメタナ／連作交響詩『我が祖国』
I ヴィシェフラド(高い城)
II ヴルタヴァ(モルダウ)
III シャールカ
IV ボヘミアの森と草原から
V ターボル
VI ブラニーク

第2曲「ヴルタヴァ(モルダウ)」ばかりが有名で、その哀愁を帯びたメロディは誰もが一度は耳にしたことがあるでしょう。でも、全曲となると「ヴルタヴァ(モルダウ)」以外はあまり聴く機会もなく、「どんな曲だったかな?」というのがこの『我が祖国』です。全曲を通して流れるボヘミアの伝説や情景が描かれた美しいメロディは、どこかに東洋的な部分があるのか、私たち日本人の心に素直に染み込んできます。

この曲はチェコでは、毎年、スメタナの命日である5月12日に開幕する「プラハの春」音楽祭のオープニングに演奏されます。札響の演奏会では2008年3月の小林研一郎指揮、第507回定期演奏会での演奏が記憶に新しいところです。今回は純粋にチェコの音楽を伝えるエリシュカさんの指揮で、「これぞ『我が祖国』の決定版」とでも言うべき演奏が期待できます。

以前、N響との演奏で話題を呼んだエリシュカさんの『我が祖国』ですが、今回は札響および九州交響楽団との演奏になります。特に、札響との演奏は各方面で注目されており、エリシュカさんの伝える本場のチョコ音楽と、情景を描写する札響の澄んだ美しい音色が、どのような感動を生み出すのか。これを聞き逃すと後悔しますよ。

Player's talk 1

ヴィオラ

みと
水戸

ひでのり
英典



——ご出身は

三笠の出身です。ヴィオラで北海道出身は私だけじゃないでしょうか。

——音楽との出会いは

幼稚園の頃だったでしょうか、父がどこかからヴァイオリンを譲りうけてきて、弾くまねをしてくれたりしたいのです。それをみて、自分から「これ、やる」と言ったらいいです。そのころ北本先生が岩見沢にも教えにいらしていたので、そこに通いました。最初は母と一緒にでしたが、小3の頃からはバスを2本乗り継いで一人で通いました。父は厳しい人で「やるのだったら、最後までやり通せ。」と言われて、遊びたいときでも泣き泣き通っていました。

——音楽大学を目指そうとしたのは

高校になってからです。高校の時にはブラバンと合唱部に入っていました。人数も少なく部は壊滅的な状況でした。音大に行きたい事を先生に言うと、「それはエライこっちゃ」と言うことで、ますます練習も厳しくなり、京都芸大の岩淵龍太郎先生を紹介していただきました。京都芸大にはヴァイオリンで進学しましたが、副科でヴィオラと出会いました。室内楽やカルテットでヴィオラを演奏することが多くなり、ヴィオラが好きになってきました。当時、チェロの黒沼俊夫先生（巖本真理弦楽四重奏団のチェロ奏者として活躍）から「君はヴィオラのほうが向いている」と言われ、自分でもそう思っていたので、ヴィオラに転向しよう決めました。大学4年の試験の時にはすでにヴァイオリンを売ってしまっていたので、友達にヴァイオリンを借りて演奏しました。

——ヴァイオリンとの違いは

とにかく、音が魅力的です。ヴァイオリンのような華やかさはないのですが、それよりちょっと渋めで暗めの音がよいのです。「ヴィオラの音ってなんだ？」ときかれましたら今でもよく分からないですけど、イメージとしては底から湧き上がってくる深い音とでも言うのでしょうか、そのヴィオラの音を追い求めて今に至っています。もちろん、音楽を下から支えているというのも魅力です。

——札幌入団の経緯を

大学4年のとき、「10月に札幌のヴィオラのオーディションがある」という話を聞いて、試しに受けてみようと思いました。実は大学の試験が10月1日にあってヴァイオリンを弾かなければならず、試験の後でヴィオラの練習に取り掛かりました。オーディションでは「だめで元元」と言う気持ちもあったので、緊張もせずに弾くことができました。

入団した最初のうちはすごく怖かったですね。周りの先輩は雲の上の人ばかりで、オーケストラに対する姿勢などいろいろ教わり、面倒を見ていただきました。「練習のときに手を抜くと本番では絶対にできない」ということを、実際に一生懸命練習している先輩の姿を見て学びました。最近、新しい人がずいぶん入ってきましたが、若い人たちを盛り立てて、札幌の伝統のようなものを伝えられたらいいかなと思っています。

——留学のお話を

アフィニス文化財団の海外研修助成の第1回で、89年にオーストリアに留学しました。そのオーディションでは、三善晃先生や千葉馨先生、江藤俊哉先生などそうそうたるメンバーの前で演奏しました。留学先は、リンツのブルッ

クナー・オーケストラでした。曲を上げるために練習をたくさんするんですね。最初はぜんぜん弾けていなくて、それが1週間かけて仕上がってくるわけです。時間をかけて曲を上げるんだなと思いました。留学中、一番面白かったのは、スペイン・グラナダのアルファンブラ宮殿の中庭で、R. シュトラウスの「サロメ」を上演したことでしょうか、指揮はウェルザー＝メストでした。

——思い出に残る指揮者は

ノイマンさんですね。札幌でドヴォルジャークやスメタナを指揮しましたが、何にもしないんです。淡々と振っているだけなのに、だんだん引き込まれていくのです。棒を見ていると自然に音楽が引き出されていくのです。ああいう感覚は初めてのことでした。いつの間にか、すごいっ、と思うように仕上がっているんです。

——ご趣味をお聞かせください。

家庭菜園で野菜づくりをしているのと、写真ですね。写真はクラブに所属していて年に1度は作品を発表しています。もう20年以上続けていて、最近は札幌のバックステージを撮っています。演奏会ではなく裏での様子を撮らせてもらっています。

家庭菜園は、畑を借りてきゅうりなど様々な野菜を作っています。去年はハウスも借りていました。今年は鹿に食べられちゃったり、近くにアライグマも出てきたりしています。

——札幌くらぶに一言お願いします

いつも会場にいらしていただき感謝しています。いつまでも応援よろしくお願いします。

(松尾英樹)

Player's talk 2

ホルン
おりかさ
折笠

かずき
和樹



——ご出身は

生まれは千葉県の香取市。前は佐原市といました。

——音楽との出会いは

小さいころはよく外で遊んでいる子供でした。10歳上と9歳上の兄がいますが、上の兄はロックを二番目の兄がブラスバンドをやっていました。小5のときに二番目の兄が『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』を買ってきて、そのときがクラシックを聴くはじめての機会だったのですが、すぐに好きになりました。中学校にはブラバンがなかったので、小遣いをためてトランペットを買い、全くの独学で練習しました。高校に入り、やっとブラバンに入部しましたが、希望していたトランペットを担当したのは1日だけでした。私が入部した次の日に、トランペット経験者が入部してきたからです。初心者だった私は、「ほかの楽器に移ってほしい」と言われてしまいました。なんとなく金管がやりたいと言うと「そうだよ。男はやっぱり金管だよ」と。ちょうど空いていたのがホルンだったので、ホルンをやることになりました。ホルンに移ったその日、レコード屋さんに行ってモーツァルトのホルン協奏曲のレコードを買いました。その奏者がザイフェルト先生です。後に、留学してザイフェルト先生に習うことになりました。

——音楽大学を目指そうとしたのは

中学生くらいからですね、まだ楽器を始める前からです。両親にはずっと反対されて、レッスンも親に内緒で行っていました。でも、母親にはすぐばれましたけど。

大学に入学してからは、ほんと

によく練習していました。同期の仲間が11人いるのですが、夜、学校が閉まるまでみんな練習していました。仲がよくて、今でも集まって忘年会をやっています。

——留学のお話を

とにかく、ドイツで勉強をしたかったのです。卒業前にトロンボーンを吹いていた仲間と二人で、一ヶ月間ほどドイツに滞在しました。観光とベルリンでレッスンを受けるためです。卒業してすぐにドイツに留学しました。3年半いたわけですが、前半はドイツ・オペラの首席のシュenk先生に、後半は先ほどお話しましたベルリン・フィルのザイフェルト先生について勉強しました。ドイツの先生は、とにかく音にはうるさかったです。「ちゃんと鳴らせ（響かせる）」といつも言われていました。練習はグループレッスンで、オケのパート譜を渡されて皆で演奏するというのが多かったです。日本だとエチュードやソロの曲が多いようですが、向こうはオーケストラの曲の練習が多かったです。ザイフェルト先生には右手の形についてうるさく言われました。手の形を曲げると音が暗くなり、真直ぐにすると明るくなるのですが、常に真直ぐにしなさいと言われました。

——札幌入団の経緯を

ドイツで日本人はなかなかオーディションを受けられず、先生の紹介で一ヶ所だけオーディションを受けることができました。その1週間後が札幌のオーディションでした。ドイツでも1年間働いてみないかと誘いを受けたのですが、札幌が決まったので札幌に来ました。

私は札幌についてよくは知らな

かったのですが、同じころベルリンにいらしたコントラバスの大澤さんが、札幌を知っていて、CDも持っていました。それを聴かせてもらって「上手いな」と思っていました。実際に入団してみて、弦の音が繊細なのが印象的でした。ドイツでオケの譜面をたくさん吹いていましたので、知っているだけでも役に立ったと思います。もちろん、練習した事がそのまま通用するわけではありません。

——思い出に残る演奏は

ブルックナーの9番ですね。これまで4回演奏したのかな。はじめは4番ホルンを吹いて、最近は2番ホルンを吹きました。それぞれが印象深いです。とても大変ですよ、ずっと吹きっぱなしで。聴いている人には目立たない所が実はきつくて大変なのです。ブルックナーは演奏するのはとてもやりがいがあり好きなのですが、CDなどでは聴かないですね。勉強として必要に迫られて聴くことはありますが、趣味としては聴きません。

——ご趣味をお聞かせください。

絵を見るのが好きですね。今、芸森で『クリムト、シーレ展』をやっていますが、機会があればそういうのを観にいきますね。それまであまりエゴン・シーレは見たことがなかったのですが、今回観て、すごく興味を持ちました。他に、アール・ヌーボーのガラス器なども好きです。

——札幌くらぶに一言お願いします

非常に心強いし、ありがたいと思っています。これからも応援をよろしくお願いします。

(松尾英樹)

第3回 JOFC 総会 (高崎市) の日程が決定

本年度の日本プロオーケストラファンクラブ協議会 (略称 JOFC、会長: 上田文雄 札響くらぶ会長) の総会が10月17日(土)、18日(日)の両日、群響ファンズの主催で高崎市 (群馬県) で開催されます。この会は、札響くらぶの提唱で設立した全国のプロオーケストラのファンクラブを会員とする組織で、会員持ち回りで毎年総会を開催してきました。札響くらぶでは毎回、会長・副会長はじめ運営スタッフが参加し、活動報告や他のファンクラブとの交流をはかってきまし

た。また、一般会員も希望する方数名が同行し、総会や懇親会に参加してきました。今年は10月17日に群馬交響楽団の定期演奏会を聴き、その後懇親会を行い、18日に総会を行う予定になっています。この様子につきましては、次号で詳しく報告しますので、楽しみにお待ち下さい。なお、日程は以下の通りです。

- 1 日目: 10月17日(土)
- 18:45 群馬交響楽団演奏会 (会場: 群馬音楽センター)

群馬交響楽団
第458回定期演奏会

指揮: 沼尻 竜典
ピアノ: 小川 典子

R・シュトラウス/
交響詩『マクベス』
三善 晃/ピアノ協奏曲
ベートーヴェン/
交響曲第3番『英雄』

- 21:30 JOFC 懇親会 (会場: 高崎ビューホテル)
- 2 日目: 10月18日(日)
- 10:00 JOFC 総会 (会場: 高崎ビューホテル)

札響くらぶ会員 特典

●平成21年度札幌交響楽団定期演奏会 10%割引(カッコ内は定価)

S席 4,500円 (5,000円)

A席 4,050円 (4,500円)

B席 3,600円 (4,000円)

C席 2,700円 (3,000円)

※学生席の割引はありません。

●平成21年度札響名曲シリーズ S席のみ10%割引(カッコ内は定価)

S席 3,600円 (4,000円)

※A席、学生席の割引はありません。

◀上記チケットを割引価格で購入できる店舗▶

・キタラチケットセンター

・大丸プレイガイド

・道新プレイガイド

・4プラプレイガイド

※各演奏会一般発売日より購入可能なので、会員証を提示して購入してください。

●テラスレストラン・キタラ

飲食10%割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワ

インのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。

●キクヤ楽器店 (狸小路3丁目)

全商品10%割引。ただし、店内に限ります。キタラ等の出店では適用されません。

●ダイニング『イル・ネージュ』

(北区北12西1

北12条パークマンション1F)

札響くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは011-717-2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いませんが、以下の項目に関してのご意見を特にお待ちしています。

①札響くらぶ主催でやってもらいたいイベント

②会報に取り上げてもらいたい記事

特に投稿の期限はありませんが、10月31日までに投稿してください

た方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

① 1月の札響定期演奏会のS席チケット (3名様) (座席の指定はできません)

② 水戸英典さんのサイン入り色紙 (2名様)

③ 折原和樹さんのサイン入り色紙 (2名様)

投稿は、ハガキ、封書またはEメールでお送り下さい。なお、必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。(あて先は会報の題字の下にあります)

編集後記

7月のPMFに続き、8月の「札響くらぶコンサート」も暖かい雰囲気の中終了しました。スタッフも初めての経験だった者が多く、とまどいや手探りの状態が沢山ありました。でも無事に終了し、スタッフの感激も一入でした。

以前、ライニングの拍手につ

いて書きましたが、演奏会中のマナーで気になることがあります。のどの調子が悪いのか、あるいはセキの予防なのか演奏の最中に鉛をなめる人が結構います。それも包み紙をガサガサとはがしながら。本人は少しでも静かにやろうとしているせいか、そのガサガサがゆっくりといつまでも続くのです。目立つのはもちろん演奏が静かな部分に差し掛かり、皆が一音も聞き逃さ

ぬように神経を集中している時なので、よけいに気になってしまいます。なかなか口に出して注意することは難しいですが、是非、やめてもらいたいと思っています。

新型インフルエンザが流行の兆しを見せ始めました。うがい、手洗いの予防を忘れずにお元気で過ごして下さい。

(松尾英樹)